

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 くむむ	対象職員 7人 回収率 7人(100%)			公表日	2025年3月3日
環境・ 体制 整備		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		1	●利用人数が少ないので十分な広さを確保できている。	○集団を工夫して適切になるように工夫している。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			●ほほやワンマン体制で支援できている。	○必ずしもワンマン体制でなく、ねらいに則した人員配置をしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構成化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		2	●階段が危険になるので注意している。	○安全に活動できるようにバリアフリーを心がけるが、重視してバリアフリーでない場所を作ることも考えている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動にあわせた空間になっているか。	6		1	●常に清潔で快適な空間になるように環境整備を行っている。	○定期的な換気や清掃を徹底し、環境整備を行っている。
業務改善	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			●部屋数も多く、十分に個別対応ができるようになっている。	○個別に対応するために、区画された空間が個室にできるような仕組みも考えたい。
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	7			●子どもたちの様子など、成長や次への目標などに気が付けば、職員間で共有するようにしている。	○引き継ぎ、職員間で話をできる時間をとって交換につなげていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			●アンケートは、職員全員に公開され、改善点を話す機会を設けている。	○会議に参加できなかった職員にも議事録を提示し、全体で共有している。
	8	職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				○今年度も受け、積極的に改善につなげていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3		4	●昨年度は行っていたが、今年度は行っていない。自分たちで気が付かないことが外部の人からの評価で気づくこともあるので行いたい。	○すでに候補者をあけて次年度に備えている。
適切な支援の提供	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		1	●研修も、児童発達支援管理責任者から有意義な研修案内がある。	○資格をとれるような研修から職員が興味をもてるような研修、スキルアップをねらう研修などに参加していきたい。
	11	通知に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			●HPで公開されている。	○定期的に更新できるように委員会のようなものを用意していきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7				○子どもを捉える目を養うよう研修に参加していきたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				○多角的な読み取りから支援計画が作成できるようにしていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				○引き継ぎ、ねらいをもとに支援できるよう共有している。
関係機関との連携	15	こどもの通园行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを実施する等により把握しているか。	6		1		○定期的に事業所内支援会議を行っている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家庭支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のわら及び支援内容も踏まえるながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				○支援会議をもとに様々な観点からの子どもの読み取りを実施して支援内容を検討していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7				○多岐の教材研究から支援内容を立案していきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		1	●子どもが興味をもつような教材、教具を提示できるようにしている。	○同じ活動(同じこと)を行うことを悪く考えていないので、子どもが興味をもつような教材や道具を工夫して考えていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7				○子どもの読み取りを事前にその時に必要な支援を職員で考え支援していきたい。
保護者との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		3	●支援開始前に行うこともあれば事前に打合せを行うこともある。チームで支援は行っている。	○打合せの時間を設け支援に臨めるようにしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	2		5	●私になることがあれば職員全員に加えるようにしている。	○その日の支援で共通理解しておることがあれば振り返りを行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		1	●その日の活動の中で成長を感じることや気づいたことを皆で共有し、支援に活かしている。	○記録簿のフォーマットを標準し、皆で共有、日々の支援に活かしていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7				○基本的に毎月1回に必ず行う。緊急性を感じた際にはすぐに実行。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	7				○正職員、パートなど関係なく、会議に適切な者が参加している。
保護者への説明	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			●保育所等訪問ではないが、実際に所属園に参画し、子どもの読み取りや課題について、また、支援方法について話をさせていたことがある。	○保育園などから小学校へ就学する際には、保護者のニーズや希望に沿った連携を求めている。
	26	移行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有を相互理解を図っているか。	7				○ニーズに合わせて行っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有を相互理解を図っているか。	7		1	●保護者からニーズがあれば企画していきたい。今のところ、あまりニーズがあるように感じていない。	○センターとの連携を強化しつつ、特別支援学校との連携から進めるスモールステップも引き続き行っていく。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7				○支援時の保護者とのやり取りを通して子どもたちの様子を知りたい。また、保護者の困り感に寄り添えるよう話を聞き取る。
	29	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7				○来年度の講師はすでに依頼済。企画していく。
保護者への説明	30	家庭の対応力の向上を図る観点から、家庭に対して家庭支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	7		●忙しすぎてできていない。	○一度だけでなく、新しい契約者にもいわれるように、HUGのシステムでのクラスや、活動記録簿を使っている機会を増やしていく。
	31	運営規程、支援プログラム、利用費負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			●契約時に話をさせていただくことがほとんどだが、HUGを利用して情報発信することもある。	○一度だけでなく、新しい契約者にもいわれるように、HUGのシステムでのクラスや、活動記録簿を使っている機会を増やしていく。
	32	児童発達支援計画を作成する際には、こどもと保護者の意向の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点に基づいて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7				○保護者専門員との連携を強化していく。
	33	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7				○保護者への対応は引き続きアンテナを張り巡らせていく。
	34	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7				○相談しやすい環境になるよう努めていく。
非常時等の対応	35	父母の会の活動を支援すること、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだいで交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	6		●今年度からニーズがあれば企画していきたい。今のところ、あまりニーズがあるように感じていない。	○まずはニーズがあるのかを把握していきたい。
	36	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7				○相談者への対応は引き続きアンテナを張り巡らせていく。
	37	定期的に連絡等を実施することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		1	●今年度から導入されたHUGのシステムを利用している。	○これまで以上にHUGのシステムを使いこなせるように努めている。
	38	個人情報取扱いに十分留意しているか。	7			●HUGの導入で、かなり改善されたと思っている。	○声を聞けい、ミスのないように努めている。
	39	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			●それぞれの家庭や子どもの状況を見、個別に対応している。	○安全計画にのって安全点検などを行っている。また、チェック方法を再確認し直す。また、定期的に確認し必要となる場合は改善していく。
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を断っているか。	6		1	●自治会に入室し、行事に参加したり、同じ建物に入っているテナントさんと仲よさげにしたい。	○今年度も様々な行事に参加していく。
	41	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		1	●HUGを利用して行っている。	○訓練等の機会を忘れずに行っていく。
	42	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な訓練、発生時の必要な訓練を行っているか。	7				○周知あり、周知なし、様々なことを想定した訓練を実施していく。
	43	事前に、地震や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			●一覧表や、対応マニュアルを共有したうえで備忘に貼りに出している。	○一覧表の確認更新を怠らないようにしていく。
	44	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示に基づき対応がされているか。	7			●主治医に聞いてもらった指示書を知りやすいように掲示してある。	○一覧表の確認更新を怠らないようにしていく。
非常時等の対応	45	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他の必要な措置を講じる等、安全管理が十分な状態で支援が行われているか。	7				○安全計画にのって安全点検などを行っている。また、チェック方法を再確認し直す。また、定期的に確認し必要となる場合は改善していく。
	46	こどもの安全確保に関して、支援等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等に周知しているか。	6		1		○HUGを使って保護者に周知していく。
	47	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			●新聞やニュースで見かけた情報を職員間で共有している。	○事例集をもう少し有効活用できないか?検討委員会を立ち上げ考えていく。
	48	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7				○虐待防止、身体拘束禁止については、公の機関の研修に参加することや、委員会の開催する研修会などで職員が常に更新できるような環境を作っていく。
	49	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7			●支援計画に記載している。	○職員会議などで方針を確認する場を設ける。